

私にとって初の海外、クウェート。トランジットを含め約 20 時間のフライトの末たどり着いた地は砂っぽく、一步外へ出ると息苦しい暑さに襲われ絶句した。

留学の本題であるアラビア語は思うように上達せず、苦しんだ時期の方が長い。右から左に読む独特な文字を書くこと自体は慣れてしまえば苦ではないが、日本語とも英語とも違う発音や性別を持つ複雑な文法に苦戦した。その中で改めて気づいたことは、アラビア語とイスラム教の深い関わりだ。イスラム教の聖典クルアーンはアラビア語で書かれているが、アラビア語を勉強しながらイスラム教を勉強すると以前より理解しやすい。また、ムスリムで小さい頃からクルアーンを読んでいた学生はそうでない学生よりアラビア語の習得が早いように感じた。

生活面では驚くことも興味深いことも多々あったが特に食事面でいくつか面白い場面に出会った。一つはナイフとフォークの使い方だ。クウェート人と食事をしたとき、彼は左手に持っているフォークを口に運ぶたびに右手に持ち替えるのである。イスラムにおいて左手は不浄の手であるため、彼らは左手で食事をとらない。周りを気にしてみるとそのように毎回持ち替える人だけでなく、そもそも右手にフォーク、左手にナイフを持つ人もたくさんいる。右から左に書く言語を使うことも起因してか左利きが多い上、利き手に関わらず食事のときはそのように持つ人も多数いるようだ。また、アラブでは食べきれない量の料理を出すことをおもてなしとする風習があるせいか食事を完食しない。毎食寮の食堂でたくさん残飯を見て心苦しくなり、日本との違いを痛感した。

実際にアラブの地で生活し、良くも悪くもこの地の様々な顔を見た。そして机上の勉強だけでは知り得ないことがたくさんあると身をもって感じた。日本では中東に対して良い印象を持たない人が残念ながら多い。個人の生活レベルでアラブを体験できた私は今後少しでもアラブと日本が近づけるよう、その一助になることができれば幸いだ。

女子寮から見た風景

